

腹腔鏡内視鏡 合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第10回 2014年10月25日

■演題 14 当科における十二指腸腫瘍に対する LECS

代表演者：仲田興平 先生（九州大学大学院 臨床・腫瘍外科／浜の町病院外科）
共同演者：[九州大学大学院 臨床・腫瘍外科] 永井英司 大内田研宙 田中雅夫
[九州大学大学院 消化器内科] 森山智彦
[国家公務員共済組合連合会 浜の町病院外科] 許斐裕之 一宮仁

<目的>

十二指腸腫瘍に対して LECS を施行した 2 例に関して報告する

症例 1

40 歳女性、十二指腸第二部に径 40mm の adenoma を認めた、消化器内科での ESD の検討をしたが困難であろうと考えられた為、外科が待機しつつ、手術室において全身麻酔下に ESD を行った。腫瘍は大きく ESD による切除は困難と考えられたため、粘膜内から全周性にマーキングをして頂き、その後内視鏡的に一部全層に切開した。その後外科チームが全層切開部からリガシユアを用いてマーキングに沿って腫瘍を摘出した。欠損部は十二指腸 1/3 周に及んだが体腔内にて Gambee 縫合を行い閉鎖する事が出来た。

症例 2

55 歳女性、十二指腸第二部に径 20mm の adenoma を認めた。ESD は可能と考えられたが遅発性穿孔の恐れもあり全身麻酔下に手術室において ESD を施行、その後補強として外科チームが漿膜筋層縫合を施行し補強を行った。

両症例とも術後合併症無く退院された。

<考察>

十二指腸腫瘍に対して腹腔鏡内視鏡合同手術を含めた適切な術式を選択する事により低侵襲かつ良好な結果を得る事が出来ると考えられる。